

お釈迦様の人間観 ― 最初期に文字化された『法句経』に学ぶ ―

多摩大学寺島実郎監修リレー講座二〇二〇年 秋学期第十回講義

薬師寺 執事長 大谷徹装

●法句経の成立と伝来

お釈迦様 およそ二千五百年前 口伝 およそ二千二百年前 文字化 パーリ語

漢訳 西暦二二四年 日本での現代語訳 大正十三年 友松圓諦先生 二十六品 四二三偈

●友松圓諦著「仏陀の言葉 全訳法句経」(甲子社書房 大正十三年刊)より

「釈尊個人の搜索にのみ成立したのではなく、多くの先人、先覚者の聖語、格言、古典をうけついで行われたもの」

「法句経は釈尊の説く生き方、考え方であり、警句集・忠告と激励の聖書である」

- ① もろもろの事象は意志(こころ)にしたがって生起する。
それゆえに、意志(こころ)はそれらに対して支配者であり、作者である。
誰でも、もし不純な意思(こころ)をもって、或いは語り、或いは行うならば、
やがて、苦しみは彼にあとづける。ちょうど、車を挽いてゆくものの足跡を追っていく車輪のように。
- ② もろもろの事象は意志(こころ)にしたがって生起する。
それゆえに、意志(こころ)はそれらに対して支配者であり、作者である。
誰でも、もし純な意思(こころ)をもって、或いは語り、或いは行うならば、
やがて、たのしみは彼にあとづける。ちょうど、あの離れることをしない影のように。

- ③ 「彼は私を罵ったのだ。私をなぐり、私を敗北させ、私から掠めたのだ」
こうした考えに執着する人には、そのうらみは息むことがない。
- ④ 「彼は私を罵ったのだ。私をなぐり、私を敗北させ、私から掠めたのだ」
こうした考えに執着しない人にこそ、そのうらみは消えうせる。
- ⑤ まことに、他人をうらむ心を以てしては、どうしてもそのうらみを解くことは出来ない。
ただ、うらみなき心によってのみ、うらみを解くことが出来る。
このことは永恒に易(かわ)ることのない真理である。

④6 この肉体を泡沫のようなものだと知り、更に又、かげろうのような性質だと悟って、
誘惑者たる魔の放つ花箭を破り、かくして死王を見ることのない地に往きたい。

⑤0 他人の過失や、他人がしてはならぬことを犯したり、すべきことを怠ったことを目にしてはならない。
然し、ただ自らが何を犯し、何を怠っているかを見なくてはならない。